News & Clip AV Material

ニュースクリップ&映像教材

■第42回「日本賞」グランプリ日本賞を決定

ＮＨＫでは、教育コンテンツ国際コンクールとして、もっとも教育的効果が高く、教育メディアの発展に寄与するコンテンツに授与されるグランプリ日本賞を平成27年10月22日（木）に決定し、授賞式を行った（**写真**）。今回は55の国と地域から、339の作品と企画が寄せられた。グランプリ日本賞の栄に輝いたのは「キミの心の“ブラック・ピーター”」（オランダ）。詳細については、http://www.nhk.or.jp/jp-prize/2015/prize_winner.htmlを参照のこと。

AV情報

■ パナソニック教育財団「平成28年度　第42回実践研究助成」募集開始

（公財）パナソニック教育財団は、ICTを活用した校内研究の推進を応援するための助成を行うことを目的に、その助成先を募集する。

〈内容〉 ○一般（１年間助成）さまざまなICTを効果的に活用して、教育内容および教育方法の改善、充実に取り組む実践研究。○特別研究指定校（２年間助成）学校が抱える普遍的なテーマについて、モデル的に取り組む学校を募集。

〈助成内容〉 ○一般50万円×70～80件程度。○特別研究指定校150万円×６件程度。

〈募集期間〉 平成27年12月１日（火）～平成28年１月20日（水）17:00まで。

〈問い合わせ先〉 （公財）パナソニック教育財団
TEL 03-5521-6100

■ 第４回理想教育フォーラム

（公財）理想教育財団では、明日の教育の在り方について具体的な論議を深めるため、標記フォーラムを開催する。

〈日時〉 平成28年１月24日（日）13:00～17:40

〈会場〉 時事通信ホール（東京都中央区銀座5-15-8）

〈内容〉 特別講演「学習指導要領改訂の方向性―アクティブ・ラーニングとは―」田村学氏（文部科学省初等中等教育局視学官）、基調講演「言語活動をアクティブに展開するには―はがき新聞の活用を考慮して―」冨山哲也氏（十文字学園女子大学教授）、シンポジウム「はがき新聞の実践とアクティブな学び」、全体討論（質疑応答）等。定員250名。事前申込制。下記を参照のこと。
https：//www.riso-ef.or.jp/forum4/index.html

〈問い合わせ先〉 （公財）理想教育財団
TEL 03-3575-4313

各地の情報

■「大阪ICT活用フォーラム―授業におけるICT活用の可能性を考えよう―」

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科では、

トピックス

ｅスクール　ステップアップ・キャンプ認定研修会
つくば市学校教育40周年記念
「21世紀の学びを変えるICTを活用した小中一貫教育研究大会」開催

『ICT教育全国首長サミット　つくば宣言』を提言

去る11月10日（火）、11（水）の両日、茨城県つくば市・つくば市教育委員会主催による標記研究大会がつくば国際会議場他を会場に、２日間延べ3,000名の参加者を得て開催された。

１日目の公開授業に続いて、国際会議場において、「つくば市ICT教育全国首長サミット」が開催され、東原義訓（信州大学教授）氏のコーディネートにより、先進的ICT教育推進自治体から８人の首長によるこれまでの取組や今後の展望などについて協議が行われた。

我が国初めての取組となった「ICT教育全国首長サミット」には全国55の自治体の首長およびその代理をはじめとして350名が出席した。

サミットに登壇した首長は次の通り。

福島県郡山市長　品川萬里氏
茨城県つくば市長　市原健一氏
東京都荒川区長　西川太一郎氏
長野県下伊那郡喬木村長　市瀬直史氏
大阪府箕面市長　倉田哲郎氏
佐賀県多久市長　横尾俊彦氏
佐賀県武雄市長　小松　政氏
熊本県球磨郡山江村長　内山慶治氏

また、サミット終了後、つくば市長市原健一氏から、文部科学省生涯学習政策局長河村潤子氏へ以下の提言が手渡された。

〈ICT教育全国首長サミット　つくば宣言〉

社会全体のICT化が加速度的に進展し、あらゆるモノがインターネットで結ばれるIoT型未来社会の到来を目前に控え、スマートフォンやSNSの普及など子供たちを取り巻く環境が劇的に変化しつつあります。現在進められている学習指導要領改訂の検討においてプログラミングや情報セキュリティをはじめとする情報モラルなどに関する学習活動の充実や、各教科等の学習のICT活用による充実が議論されています。また、全国でも多くの自治体が魅力ある街づくりとして、先進的ICT教育の推進に取り組みはじめています。

今般、つくば市学校ICT環境整備40周年記念大会を開催し、ICT教育推進に率先して取り組む首長および関係団体が参加して、「ICT教育全国首長サミット」の開催を契機として、さらなる教育環境のICT化を強力に推進するため、関係者が一体となって、以下に取り組むことをここに宣言します。

・行政と教育委員会が連携してICT教育などの教育水準の向上と魅力あるまちづくりを一体として目指します。
・子供たちが主体的にわくわく楽しい授業が展開できるためのICTの環境整備と教員のICT活用指導力の向上を進めます。
・子供たちの確かな学力と社会に対応する力を育てるために、情報モラルをしっかり身につけたICT機器の利用を促進します。

国の動向や大阪内外のICT活用教育の事例に触れ、地域ぐるみでの取り組みについて考える標記フォーラムを開催する。

〈日時〉　平成27年12月23日（水・祝）13:00～17:00

〈会場〉　大阪教育大学天王寺キャンパス西館ホール（大阪市天王寺区南河堀町4-88）等。

〈内容〉　教育の情報化に関する基調講演　磯寿生氏（文部科学省生涯学習政策局情報教育課長）、事例報告、パネルディスカッション「ICT活用を地域全体に広げていくために」等。定員、先着150名。http://goo.gl/forms/cxHQzyTceUより、事前申込のこと。

〈問い合わせ先〉　大阪教育大学大学院連合教職実践研究科　寺嶋浩介
MAIL kostera@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

■「情報教育対応教員研修全国セミナー」札幌・福岡

（一社）日本教育情報化振興会では、札幌と福岡

ブックレビュー

「教えて考えさせる算数・数学　深い理解と学びあいを促す　新問題解決学習26事例」

市川伸一著
図書文化社　発行
2015年９月１日刊　B5判
176頁
2,200円（税別）

名古屋大学教授（当時）三枝孝弘氏とともに私は『教えることと教えかた』という本を編んだことがある（1988年、第一法規）。「学ぶ」ではなく「教える」をタイトルにしたのは、子どもの自主性・自発性の喚起は良いとして、教えるべきことを教えないのは教師の怠慢だろうということであった。同じ頃「学習指導案」は「学習支援案」という語に置き換えるべきだとの主張が広まりはじめた。私がその語に出会ったとき「教師は支援するのであって、指導するのではない」と説明されて大いに驚いた。何を指導し、何を支援するかではなく、指導は無用との主張である。『教育の方法と技術』（2006年、図書文化）の中で私はその問題を改めて指摘した。「調べ学習」と言って「何をどのように調べるのか」の指導なしに「さぁ、調べましょう」というのでは子どもは大いに戸惑う。必要な指導はあるのだと書いた。

市川伸一氏の「教えて考えさせる」授業は、こうしたことについて子どもたちの実態を見つめて、何を教え、何を考えさせるのかを明らかにしようとしている。クロンバックのATI（適性処遇交互作用）、クラウダーの分岐型学習プログラムの理論に通じる研究のように思われる。ことに、クラウダーの誤答分析を精緻化する研究ではないかと思っている。ただ、私は「掛け算の順序」、それに関連した「等分除・包含除」というこの国の算数教育「業界」に固有の（と、私は考えている）指導法に疑問を持っている。本書中の事例「分数でわる計算」における授業でのこれらの扱いについて、いずれ教えを請いたいと思う。

本書は、実際の授業を基にしているので、説得力のある本に仕上がっている。何を教え、何を考えさせるか、先生方に読んで欲しい本だ。

（文教大学名誉教授　平沢　茂）

において標記セミナーを開催する。
《札幌》「タブレット端末活用セミナー in札幌」
〈日時〉　平成28年１月12日（火）13:00～16:25
〈会場〉　札幌コンベンションセンター1F中ホール（札幌市白石区東札幌６条1-1-1）
〈内容〉　趣旨説明「タブレット端末の活用で授業はどう変わるか」中川一史氏（放送大学教授）、実践発表「『タブレット端末×授業支援ソフト』教員から始めるタブレット活用“協働学習”成否のポイント／“画面合体”で広がる学習活動」、授業支援ソフトウェア体験、パネルディスカッション「タブレット端末活用を推進するための方策メリット、デメリットを整理する／活用推進するための研修のポイント／環境、運用管理の課題と対策」等。
《福岡》「ICT社会で学び合うためのコミュニケーション力育成セミナー」
〈日時〉　平成28年１月15日（金）13:00～16:20
〈会場〉　リファレンス博多駅東（福岡市博多区博多駅東1-16-14）
〈内容〉　基調講演「ICT社会で学び合う子どもたちと協働学習」赤堀侃司氏（日本教育情報化振興会長）、パネル討論（趣旨説明）、模擬授業・ワークショップ「タブレット端末・思考表現ツールを活用した協働学習　小学校コース／中学校コース」、展示等。
〈問い合わせ先〉（一社）日本教育情報化振興会
TEL 03-5575-5365

学会情報

■ 日本教育工学会研究会

日本教育工学会では、「学校の教育力向上に資する実践研究／一般」をテーマに標記研究会を開催する。
〈日時〉　平成27年12月12日（土）10:00～17:10
〈会場〉　新潟大学五十嵐キャンパス（新潟市西区五十嵐２の町8050）
〈内容〉　発表「ICT研修ファシリテーター養成講座の開発」「ビジュアルプログラミングツールを用いた小学生向け制御プログラミング教育の検

討」「異なるICT環境の教室で学ぶ児童の発表意欲の違いに関する検討」「『教育工学的な視点に基づく教師教育ハンドブック』の形成的評価」他、討論会等。詳細は、下記を参照のこと。
http://www.jset.gr.jp/study-group/files/?date=20151212
〈問い合わせ先〉　日本教育工学会研究会幹事
MAIL study-group-core@jset.gr.jp

■ **映像情報メディア学会2015年冬季大会**

（一社）映像情報メディア学会では、映像情報技術は放送・通信・パッケージなどさまざまなメディアにおけるキーテクノロジーとなっており、多方面で精力的な研究開発が進められていることから、その最新成果を持ち寄り、研究者、技術者が一堂に会して意見交換を行う場として、標記大会を開催する。
〈日時〉　平成27年12月15日（火）9:00〜16:35・16日（水）9:00〜17:00
〈会場〉　早稲田大学西早稲田キャンパス63号館（東京都新宿区大久保3-4-1）
〈内容〉　一般講演17部門95件（CG、立体、メディア工学などから最新技術の講演）、シンポジウム「テレビの新潮流」他、特別企画・デモ展示、特集テーマセッション「スポーツ映像処理」等。
〈問い合わせ先〉（一社）映像情報メディア学会冬季大会係　TEL 03-3432-4677

■ **人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2015」**

情報処理学会の研究会である人文科学とコンピュータ研究会では、「じんもんこんの新たな役割―知の創成を目指す文理融合のこれから―」をテーマに標記シンポジウムを開催する。
〈日時〉　平成27年12月19日（土）9:45〜17:30・20日（日）10:00〜17:30
〈会場〉　同志社大学京田辺校地（京都府京田辺市多々羅都谷1-3）
〈内容〉　セッション「デジタル・アーカイブの活用」「デジタル・アーカイブの保存と流通」他、講演、パネルディスカッション等。
〈問い合わせ先〉　シンポジウム全般照会先
MAIL jinmoncom2015-contact@mail.doshisha.ac.jp

文部科学省選定作品

■10月選定
紙紙しばい／ビビデオ／DDVD／映映画

特選「映像で学ぶ薬害シリーズ　薬害の知識と教訓　日本の薬害事件」D55分〈青年・成人、職業の知識技術（医療・福祉）〉（株）メディアバンガード
「しきぶとんとうさんと　かけぶとんかあさんと　まくらちゃんのいちにち」紙８枚〈幼稚園、幼児／幼児、教養〉（株）童心社
「魅力いっぱい！野菜のある食卓」D24分〈少年・青年・成人、家庭生活（食生活）〉（株）放送映画製作所
「出産・育児への理解がない〜職場のマタニティ・ハラスメントを防ぐ〜」D26分〈成人、国民生活（男女共同参画社会）〉（株）映学社
「減らそう！セクシャル・ハラスメント〜職場の風土を変えよう〜」D25分〈成人、職業生活一般（職場の人間関係）〉（株）映学社
「海難1890」映135分〈少年・青年・成人、教養〉東映（株）
「あい　精神障害と向きあって」D95分〈青年・成人、教養〉ピース・クリエイト（有）
「犬山祭」D25分〈青年・成人、教養〉（株）CNインターボイス
「樽丸　吉野杉の里　黒滝の知恵と技」D31分〈青年・成人、教養〉（株）CNインターボイス
映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/main9_a1.htm

寄贈図書資料

「なぜ教室にはテレビがあるのか!?」2015年７月A4判73頁、埼玉県放送教育研究開発委員会
「高校生の生活と意識に関する調査報告書―日本・米国・韓国の比較―」2015年８月A4判116頁、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター

短信

■東京書籍株式会社では、代表取締役社長　川畑慈範氏が代表取締役会長に就任、後任社長に、千石雅仁氏が就任した。
■前号「文部科学省生涯学習政策局情報教育課の異動」において、表記に誤りがありました。
降旗友宏氏は、正しくは、降籏友宏氏です。
訂正しておわび申し上げます。